

建設コンサルタンツ協 設計に「超過外力」提案

震災復興で 緊急提言 ハード・ソフト対策融合

建設コンサルタンツ協会(建コン協、大島一哉会長)は20日、東日本大震災の復興についての緊急提言「ハード・ソフトベストミックス(HSBM)宣言」を発表した。ハード面では設計外力を上回る外力という新たな概念を構

造物の設計思想に取り入れることを提言。ソフト対策による安全行動をさらに充実させることも求めた。近く国土交通省の佐藤直良技監ら幹部に提出。国や地方自治体と行う意見交換会の場でも内容の説明する。

HSBM宣言は、同協会(備)と避難を主とするソフトの「最適な組み合わせ」により「人の命だけは」として「守る」ことを視点に据えた。

ハード面では、これまでの「L(レベル)1」「L2」といった設計外力の概念に加え、超過外力を表す「L3」という概念を設計思想に取り入れ、このL3を念頭に土木構造物を設計する必要があると提案した。

さらに「避難」「情報」「組織」「教育」「法整備」といったソフト対策によって安全行動をさらに充実させるよう要望。ソフト対策では「法的義務」の概念も導入し、平時と非常時に分けて行政や住民が負うべき「法的義務」を明らかにすることが必要だとの考えを示した。

想定する災害の規模に応じてハード対策とソフト対策をベストな形で組み合わせさせた「ハード・ソ

フトベストミックス」を考慮。「施設は毀損(きそん)しても人の命だけは」として「守る」ことを設計の基本概念とするよう訴えた。

被災地の復興に向けて合意形成の仕組みを構築すべきだとも提言。具体的には土木学会と連携し、新たな枠組みを提案していくとした。

道路、道路構造物(橋梁など)、鉄道、都市計画、下水道、砂防・急傾斜、港湾、海岸、河川、ダム、土質・地質、廃棄物処理の計12分野で技術的な28の提言もまとめた。ダム分野では水力エネルギーの再利用、廃棄物処理ではプロジェクトマネジメント方式の導入やPPP・PFI手法の検討などを求めている。

東日本大震災を踏まえ、首都圏、東海・東南海、南海地震に対する防災計画の見直しや、東海地方の新幹線、国道、高速道路のあい路集中の解消、国土構造の多極化なども併せて要請した。